



フォーカス編

株式会社 T&Dホールディングス

〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番3号 TEL: 03-3434-9111(代)
http://www.td-holdings.co.jp/ mail: csr@td-holdings.co.jp

地球のいのち、つないでいこう



わたしたちは生物多様性に配慮しています



グリーン購入に取り組んでいます。



本レポートは、印刷用紙に生物多様性の保全に貢献する「里山物語」、インキは植物油含有量を増やし、構成成分中の高沸点石油系溶剤を1%未満に抑えたノンVOCインキを使用しています。また、印刷工程ではフィルムを使用しない「CTP」、有害廃液を出さない「水なし印刷方式」で印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物から発生する3,161KgのCO₂は、カーボンフリーコンサルティング(<http://www.carbonfree.co.jp>)を通じてオフセット(相殺)され、地球温暖化防止に貢献します

3つの市場で独自のビジネス そこから生まれる、新たな価値

私たちT&D保険グループは、3つの生命保険会社を中心とする企業グループです。
グループ各社は財務の資本のほか、人材やエネルギー、資源などの非財務の資本をバランスよく配分しながら、事業活動を展開。
「家庭市場」「中小企業市場」「金融機関等代理店市場」で独自の商品を提供し、さまざまな価値の創造を目指しています。



成果

経営の健全性を高めつつ、
多くの価値を創造

契約高

保有契約高(※) 2014年3月末

59兆5,068億円

新契約高(※) 2013年度

6兆1,670億円

※生保3社合算(個人保険・個人年金保険)

保険金支払い 2013年度

3,822億円(※)

・給付金支払い
1,924億円(※)

・年金支払い
4,604億円(※)

※生保3社合算

ソルベンシー・マージン比率

通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「保険金の支払余力」を有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つであり、200%以上であれば、健全性についての一つの基準を満たしていることを示します。

2014年3月末

T&Dホールディングス(連結)

1,115.0%

太陽生命(単体)

981.3%

大同生命(単体)

1,156.4%

T&Dフィナンシャル生命(単体)

1,051.2%

CO₂排出 2013年度

59,908t

上記以外のグループ会社

- 保険事業
ベット&ファミリー少額短期保険株式会社
- 保険関連事業
T&Dコンファーム株式会社/東陽保険代行株式会社/
株式会社大同マネジメントサービス
- 投資運用・投資助言事業等
T&Dアセットマネジメント株式会社
- その他の資産運用関連事業
T&Dリース株式会社/T&D Asset Management Cayman Inc.
太陽信用保証株式会社/イー・アイ・キャピタル株式会社
AIC Private Equity Fund General Partner Ltd.
- 総務関連事業
T&Dカスタマーサービス株式会社
- 事務代行・計算関連事業等
T&D情報システム株式会社/日本システム収納株式会社/
株式会社全国ビジネスセンター

T&D保険グループ経営理念

Try & Discover(挑戦と発見)による
価値の創造を通じて、人と社会に貢献
するグループを目指します。

T&D保険グループ経営ビジョン

■お客さまからの視点
私たちは、最優の商品・サービスの提供により、
お客さま満足度のトップを目指します

■株主・投資家・市場からの視点
私たちは、成長に向けた新たな挑戦により、
安定的・持続的に企業価値を向上させ、
確固たる存在感のある大手生保グループを
目指します

T&D保険グループCSR憲章

T&D保険グループは、経営理念に基づき、
社会とともに持続的成長を遂げ、生命保険
業等の公共的使命と企業の社会的責任を果
たします。

- より良い商品・サービスの提供
- コンプライアンスの徹底
- 人権の尊重
- コミュニケーション
- 地域・社会への貢献
- 地球環境の保護

T&D保険グループだからできること

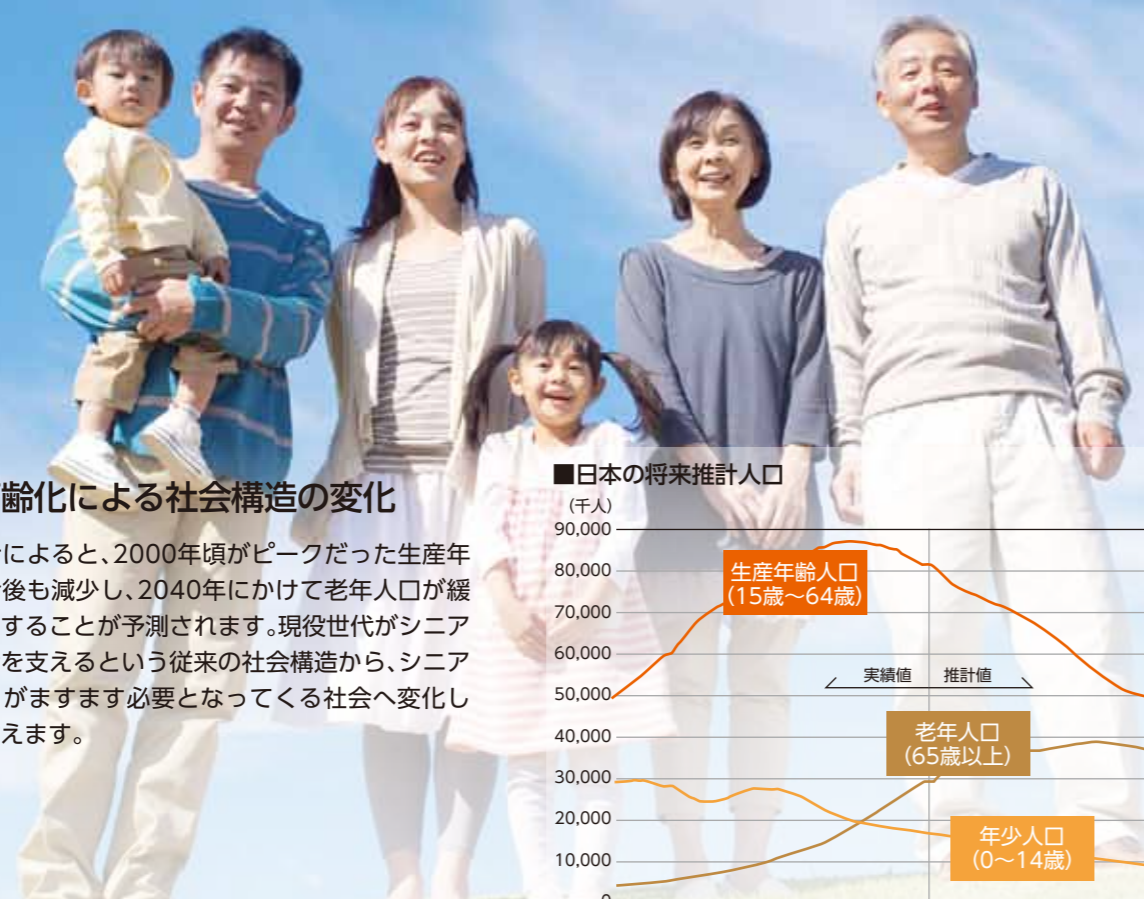
T&D保険グループは、現代社会の諸課題に対して真摯に向き合い、その解決を図るためにより良い商品・サービスの提供をはじめ、幅広い事業活動を展開しています。

社会的課題

「安心して暮らせる社会へ」

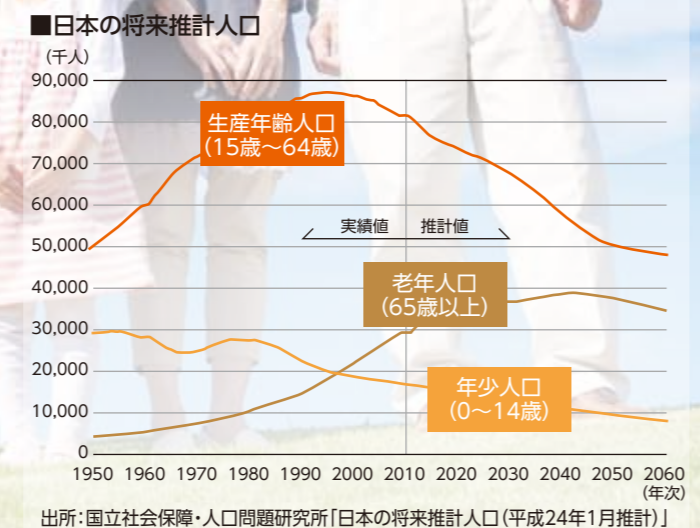
社会構造の変化とともに多様化する未来への備え

愛する家族と幸せに暮らしたい。自分の会社を次の世代へ託したい。このような、「大切なものを守りたい」という人々の想いに応えるのが、保険会社の使命です。少子高齢化の進展や、医療技術の進歩など、社会構造が変化しリスクが多様化する現代社会において、私たちT&D保険グループは新たな商品・サービスを開発し未来への備えを提供しています。



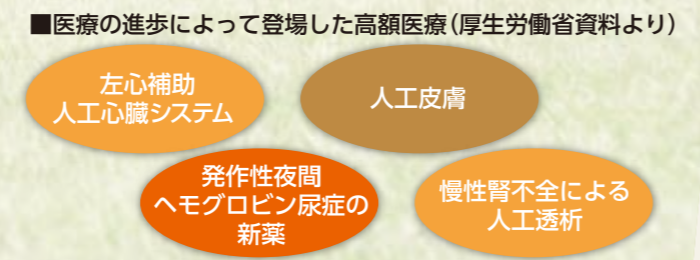
少子高齢化による社会構造の変化

政府の統計によると、2000年頃がピークだった生産年齢人口は今後も減少し、2040年にかけて老年人口が緩やかに増加することが予測されます。現役世代がシニア世代の生活を支えるという従来の社会構造から、シニア層の「自助」がますます必要となってくる社会へ変化してくると言えます。



医療の進歩

医療の高度化は、私たちの平均寿命を伸ばし健康に働ける期間を長期化しました。一方で高齢化の進展、医療費の増大、介護といった備えるべき社会の課題も生じています。



T&D保険グループの取組み

生命保険会社を中核とするグループとして、より多くの人々に必要とされる保険をご提供いたします。

T&D保険グループの最大の特徴は、中核生命保険会社がそれぞれ独自の販売チャネルを通じ、ご家庭や経営者など幅広いお客さまに商品を提供していることです。より多くのお客さまの不安やリスクを解消し、将来への希望をお届けしています。

最優の生活保障をご家庭に

▶ 太陽生命

太陽生命では、お客さまのライフサイクルに応じたサポートを的確に行うことで、一生涯にわたる高品質の商品・サービスを提供するため、2013年4月に入院・手術関係商品、2013年11月に簡単な告知のみで加入できる「保険組曲Best既成緩和」および告知や医師の診査を必要としない「太陽生命のやさしい保険」について、保障内容を充実させるとともに、保険料の低廉化を行いました。また、2014年3月に銀行を通じて発売した「My介護Best」では、公的介護保険制度で要介護2以上の認定を受けた場合などに、終身にわたって生活介護年金をお支払いできるようになりました。



中小企業を多様化するリスクからお守りする

▶ 大同生命

大同生命では、高齢化の進行などから中小企業経営者の現役期間が長期化し、就業不能など生存中のリスクが高まっていることを踏まえ、2010年10月には、重大疾病に罹患した場合に企業をお守りする「Jタイプ」を、2012年10月には、中小企業経営者が入院した際の売上減少リスク等から会社を守るという新しいコンセプトで「Mタイプ」を発売しました。また、2014年9月には、傷病を問わず重度の身体障がい状態による就業不能時に企業をお守りする「Tタイプ」を発売するなど、商品ラインアップの継続的な充実を図っています。



大切なご家族に増やしてのこす

▶ T&Dフィナンシャル生命

T&Dフィナンシャル生命では、高齢化の進展に伴い、幅広い年齢のお客さまに安心して保障をご準備いただけるよう、シンプルでわかり易く設計した「みんなにやさしい終身保険」を金融機関等代理店を通じて提供しています。「みんなにやさしい終身保険」は、50歳から95歳までのお客さまが、職業告知のみでお申込み可能で、死亡保険金額が契約年齢に応じて5年ごとに最大3回増加するため、大切なご家族に増やしてのこせる一時払終身保険です。今後ともお客さまにご満足いただける商品・サービスの提供に努めていきます。



社会的課題

「持続可能な社会へ」

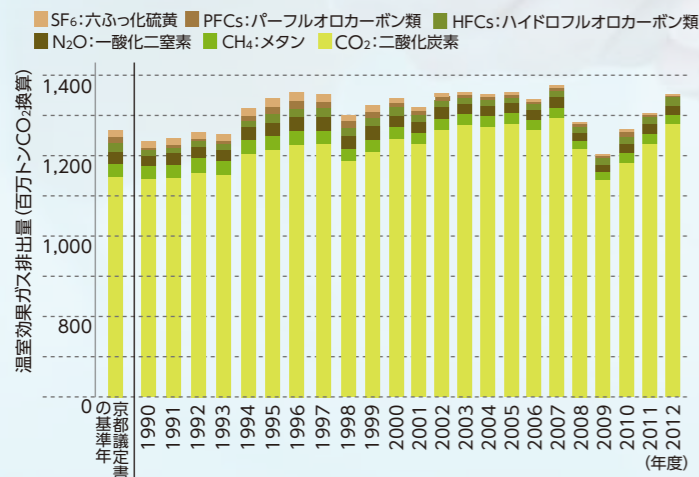
地球環境の保護

持続可能な社会を構成する上で、地球環境の保護は最も重要な課題のひとつです。同時に、地球温暖化は、さまざまな疾病を引き起こす可能性もあり、人の命と健康に直接関わる T & D 保険グループにとってもますます重要となっていく課題です。次世代、そして今を生きる人々のために、私たちは事業活動を通して地球環境の保護に向けた取組みを推進しています。

増加傾向にある温室効果ガス

京都議定書における基準年の値と比較すると、2012年度は温室効果ガスの総量は6.5%増加しています。二酸化炭素だけみると2012年度は基準年と比べて11.5%も増加しています。

■温室効果ガス排出量の推移 (1990-2012年度)

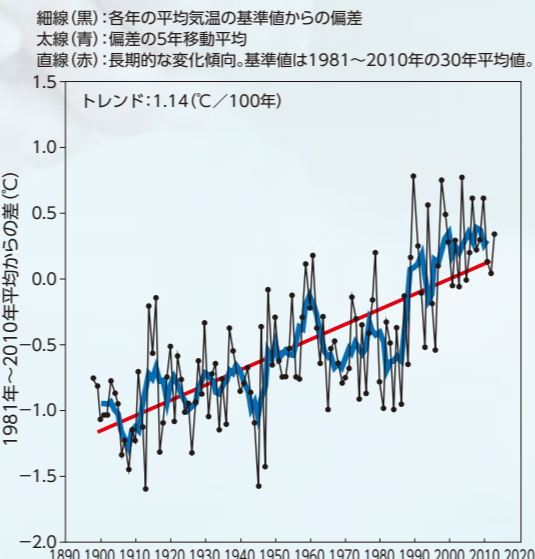


出所: 国立環境研究所 温室効果ガスインベントリオフィス

上昇し続ける日本の年平均気温

1990年以降は特に高温となる年が多く、100年あたりで約1.14℃も上昇しています。

■日本の年平均気温偏差



出所: 気象庁 日本の年平均気温の偏差の経年変化(1898~2013年)

T&D保険グループの取組み

日々の業務を通じて、環境保護に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。

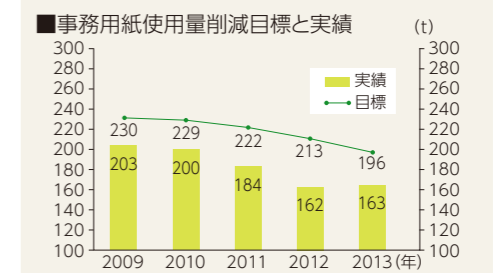
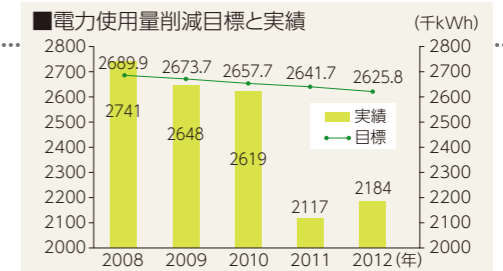
T&D保険グループでは、日々の業務における環境保護活動として「電力使用量削減」「事務用紙使用量削減」「グリーン購入」に積極的に取り組んでいます。また2014年7月には、T&Dホールディングスならびにその直接子会社すべてが「21世紀金融行動原則」に署名しました。

環境負荷軽減への取組み

▶ グループ目標を設定して取り組む環境保護の活動

T&D保険グループは、グループとして環境関連の目標を設定し、毎日の事業活動の中でその達成に向けた取組みを進めています。目標は、電力使用量と事務用紙使用量の削減、事務用品のグリーン購入比率向上の3つです。電力使用量の目標は、2008年度からの5年目標(右図)、事務用紙使用量は2009年度からの5年目標(右図)、グリーン購入比率は2009年度から継続で80%以上とする目標としました。これまでにいずれも目標を達成し、電力使用量は2013年度から新しい5年目標を設定、事務用紙使用量も2014年度から新しい5年目標を設定して使用量削減に取り組んでいます。一つひとつは、とても小さな行動の積み重ねですが、グループ各社が継続的に取り組むことで着実な成果となっています。

- グリーン購入比率の実績は、2009~2013年度の各年度で、それぞれ90.1%、94.8%、95.9%、95.7%、95.4%となっています。
- 2013年度以降の電力使用量目標は対象範囲を拡大し、単位面積当たりで設定。2013年度末実績は、目標を7.5ポイント上回る削減状況となっています。



▶ 森林保全活動

2006年3月に栃木県那須塩原市に設置した「太陽生命の森林」では、間伐作業を中心とする森林整備活動を実施したほか、創業120周年記念企画として炭焼窯跡を中心とする「憩いの広場」を完成させました(年間の延べ参加者数約200名)。2007年11月に滋賀県高島市に設置した「太陽生命くつきの森林」では、林道整備やビオトープ整備などの森林整備活動を実施したほか、創業120周年記念企画として「120段の階段」を完成させました(年間の延べ参加者数約300名)。



21世紀金融行動原則

2014年7月に、T&Dホールディングスと大同生命、T&Dフィナンシャル生命、T&Dアセットマネジメント、ペット&ファミリー少額短期保険のグループ5社は、持続可能な社会の形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として策定された「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」の趣旨に賛同し、当原則に署名しました。太陽生命は当原則が策定された2011年11月に署名していますので、T&Dホールディングスならびにその直接子会社の全社が本原則の署名会社となりました。T&D保険グループ各社は、これまで本業および事業活動全般を通じて社会的課題の解決に貢献する取組みを進めてきましたが、改めてグループとしての姿勢を皆さまにお示しするとともに、持続可能な社会の実現に向け日々の事業活動に誠実に取り組んでいくことをお伝えしたいの思いから、本原則に署名いたしました。

21世紀金融行動原則

1. 自らが果たすべき責任と役割を認識し、予防的アプローチの視点も踏まえ、それぞれの事業を通じ持続可能な社会の形成に向けた最善の取組みを推進する。
2. 環境産業に代表される「持続可能な社会の形成に寄与する産業」の発展と競争力の向上に資する金融商品・サービスの開発・提供を通じ、持続可能なグローバル社会の形成に貢献する。
3. 地域の振興と持続可能性の向上の視点に立ち、中小企業などの環境配慮や市民の環境意識の向上、災害への備えやコミュニティ活動をサポートする。
4. 持続可能な社会の形成には、多様なステークホルダーが連携することが重要と認識し、かかる取組みに自ら参画するだけでなく主体的な役割を担うよう努める。
5. 環境関連法規の遵守にとどまらず、省資源・省エネルギー等の環境負荷の軽減に積極的に取り組み、サプライヤーにも働き掛けるように努める。
6. 社会の持続可能性を高める活動が経営的な課題であると認識するとともに、取組みの情報開示に努める。
7. 上記の取組みを日常業務において積極的に実践するために、環境や社会の問題に対する自社の従業員の意識向上を図る。

社会的課題

「誰もが活躍できる社会へ」

人権の尊重

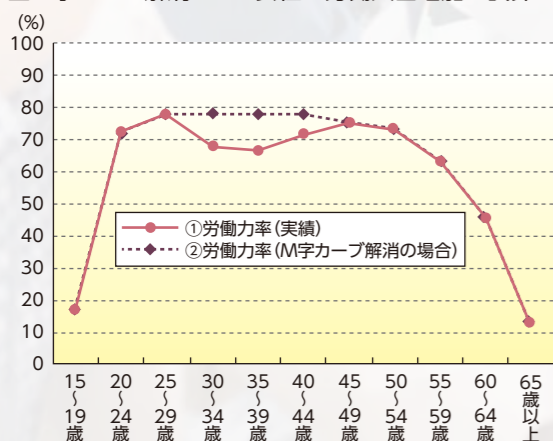
いきいきと働ける職場環境を従業員に提供する。これは従業員個人の幸せだけでなく、企業の成長、さらには社会全体の活性化にもつながる、企業の重要な社会的責任であるとT&D保険グループは考えています。そこで、私たちはグループ発足以来、「多様な人材が働きがいを感じながら能力発揮できる企業風土づくり」を推進しています。



働きにくい30～40代の女性

就職を希望しながらも非労働力となっている人の数は、男性が126万人、女性が345万人となり、年齢階層では30～40代が特に多い状況(M字カーブ)です。これを解消すると、女性の労働力人口が約131万人増加すると見込まれています。

■M字カーブ解消による女性の労働人口増加の試算

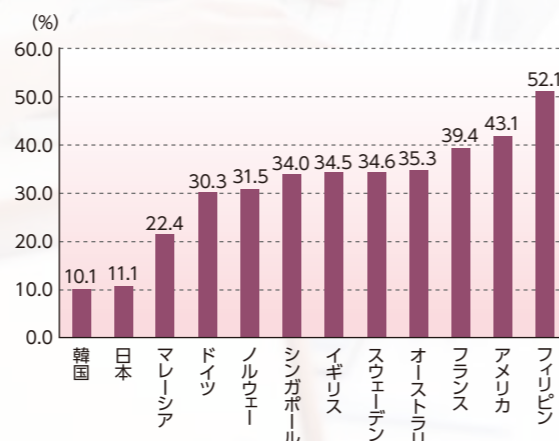


出所:内閣府 平成22年版 男女共同参画白書の検討状況について

世界に遅れをとる女性の管理的職業従事者の割合

会社役員や企業の課長相当職以上、管理的公務員等である「管理的職業従事者」の女性割合は、日本は11.1%に過ぎません。これは世界的に見ても低い水準です。

■管理的職業従事者に占める女性割合(国際比較)



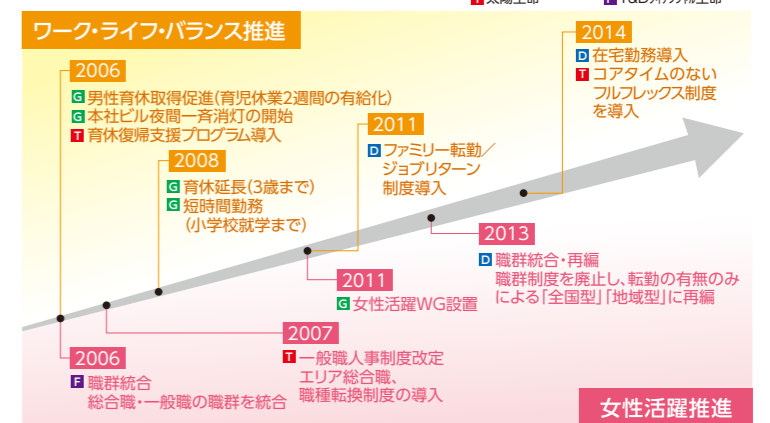
出所:内閣府 女性の活躍促進について

T&D保険グループの取組み

さまざまな研修や諸制度の導入により、誰もが働きがいを持って活躍することのできる職場づくりを進めています。

T&D保険グループでは、近年優秀な女性従業員の管理職登用やキャリア意識向上のためのセミナーの開催など、女性が活躍できる職場づくりを積極的に進めています。さらに、ビジネスモデルの異なる生命保険会社3社が独自性・専門性を発揮しているユニークな特性を活かし、グループ内の人材交流を推進しています。

グループと生命保険会社3社の主な施策



女性の活躍を支援するために

▶ グループ合同女性セミナーを開催

グループの女性職員をメンバーとするワーキンググループ*が企画・運営し、東京・大阪・さいたまの本社3拠点で中堅女性職員(118名)を対象にリーダーシップの発揮と役職登用への意識喚起を目的としたセミナーを開催しました。生命保険業界初の女性役員となられた湯本喜枝氏の講義を受講後、「リーダーに必要な能力を身につけるために取り組むこと」をテーマにディスカッションを実施。チームごとの発表ではさまざまな切り口から意欲的な意見が出されました。

*女性活躍ワーキンググループ

2011(平成23)年に発足した、T&Dホールディングス・太陽生命・大同生命・T&Dフィナンシャル生命の女性職員をメンバーとするグループ横断のワーキンググループです。グループ合同セミナーの企画運営や女性活躍施策のグループ内への周知活動などを行っています。



▶ 女性の活躍をテーマとした管理職向けセミナーを開催

2012年度の役員・部長セミナーに続き、2013年度も本社課長層を中心に管理職向けセミナーを開催しました。

(講師:東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長 瀧美由喜(あつみなおき)氏)



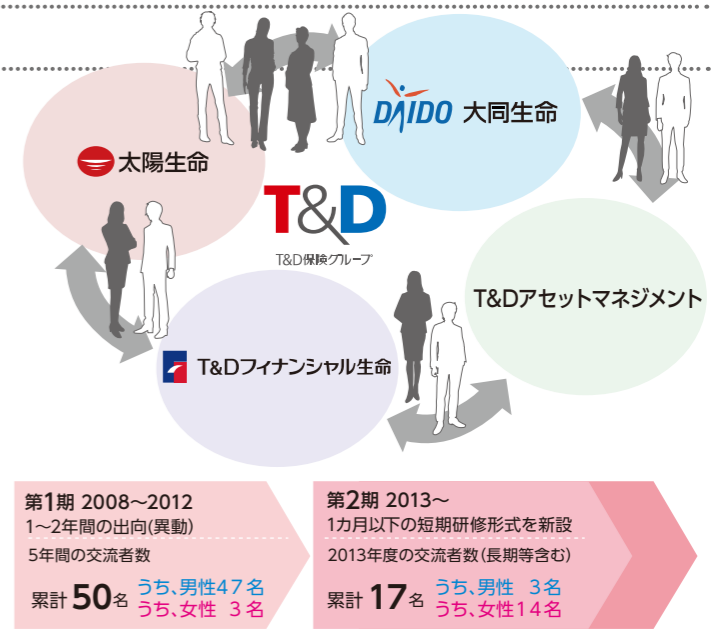
異なる企業文化を尊重し学び合うために

▶ グループ人材交流

T&D保険グループでは、2008年度より生命保険会社3社間の人材交流を実施し、2012年度までの第1期には、5年間で50名の会社間人事異動を実施しています。

2013年度に始まった第2期より、新たに1週間から4週間程度グループ他社に「留学」する短期交流制度を併設し、13名の若手・中堅女性職員が参加。グループ全体では計17名が交流しました。

第1期の交流は遠隔地を含む長期間の勤務地変更を伴うことなどから、男性総合職が主な対象となっていました。短期留学方式を新設することで地域限定の女性職員でも制度を利用し、グループ各社への「留学」を可能としました。異動の機会が少ない地域限定の女性職員のキャリアアップへの意識喚起に繋がっているほか、交流後の業務改善提案の活発化など、実務経験豊富な女性職員の交流が「各社の優れたスキル・ノウハウのグループ共有」に貢献しています。



主な地域・社会への貢献活動

T&D保険グループでは、社会とともに持続的に成長を遂げ、公共的使命と社会的責任を果たしていくことを目指し、「健康・医療・福祉の向上」「健全な社会の発展」などの観点から、さまざまな社会貢献活動を実施しています。

全国一斉グリーンキャンペーン

太陽生命は1982年より、地域社会に対する社会貢献活動のひとつとして、年1回、本社周辺の清掃活動を行ってきました。2004年からは「全国一斉グリーンキャンペーン」として、全国の支社でも周辺地域の清掃活動を実施するようになりました。2013年度は、本社・関連会社および支社から8,612名(従業員の家族を含む)が参加しました。本社(汐留地区)では、東京都港区の「みなと環境にやさしい事業者会議(mecc)」と共催し、グループ各社の他、mecc会員企業からの参加者とともに、地域美化に取り組んでいます。



全国障害者スポーツ大会への特別協賛

大同生命は、創業90周年の1992年に開催された第1回「全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)」(注)より、毎年、全国障害者スポーツ大会に特別協賛しています。また、大会に参加する選手などとの交流の場である「ふれあい広場」に「大同生命ブース」を毎年設置し、多くの役員がボランティアとして活動しています。2013年度の大会は「スポーツ祭東京2013」として東京都で開催され、グループ各社の役員を含む、延べ約1,000名がボランティア活動に参加しました。
(注)「全国知的障害者スポーツ大会」は、2001年に「全国身体障害者スポーツ大会」と統合され、「全国障害者スポーツ大会」として開催されるようになりました。



チャリティーカレンダー展の開催

大同生命は、役員による自主的な企業市民活動組織「大同生命社会貢献の会」が主体となり、取引先やグループ各社などから提供いただいたカレンダーや手帳などを、チャリティーバザーとして役員に販売する「チャリティーカレンダー展」を、1995年から毎年実施しています。チャリティーの収益金は、毎年実施しているボランティアプログラム「身体障がい者一日外出支援ボランティア」の受け入れ団体に寄付しました。



日本ダウン症協会への支援

太陽生命は、「公益財団法人 日本ダウン症協会」と交流し、2006年よりさまざまな支援活動を行っています。同社が森林保全活動を行っている「太陽生命の森林」では、ダウン症協会の方々をお招きして森林教室を実施しました。森林教室には同社役員などがボランティアとして参加し、活動をサポートしました。また、同社で使用していた机や椅子などの事務用品を寄付したり、同協会が開催するセミナーの会場や評議委員会・理事会の会合に同社ビルの会議室を提供するなど、さまざまな支援を続けています。



寄付による大学でのオープン講座

大同生命では、ご支援いただいている皆さまに感謝の念を含め、創業100周年を迎えた2002年より、寄付による大学でのオープン講座を開催しています。中小企業経営者の皆さまに、経営・ビジネスに関連する知識・スキルの習得の場をご提供しており、過去12年間で延べ約9,800名にのぼる受講者の方々から大変ご好評いただいています。講座内容は、大学ごとに独自の切り口で工夫を凝らし、中小企業経営に資する理論と実践を織り交ぜたテーマ・講師陣を設定いただいています。また、「TKC全国会」からも講師を派遣いただき、税理士・公認会計士の視点による実践的な内容の講義が企画されています。



大学向けの資産運用サービス

T&Dアセットマネジメントでは、本来の事業領域である資産運用において広く社会に貢献することこそがCSRの本質と考え、大学に対する資産運用サービスを提供しています。これらサービスの提供を通じて、大学が質の高い教育・研究を行えるよう、資産運用におけるガバナンスや財政基盤の確立をお手伝いしています。



グループ共同献血活動

T&D保険グループでは、毎年グループ共同で、東京都赤十字血液センターへ献血の協力を行っています。8月と1月の年2回、汐留本社ビルに献血会場を2日間設置し、グループ各社の役員参加を呼びかけています。2013年度は汐留本社ビルで合計386名の役員が来場しました。



東日本大震災復興支援

「公益社団法人 日本フィランソロピー協会」が企画した「福島の子もたちに絵本を届けるプロジェクト」に大同生命が協力し、グループ各社を含む役員から届けられた569冊の絵本を寄贈しました。これらの絵本は、被災地の保育園・幼稚園を定期的に巡回する「えほんバス」や「えほんカー」に積み込まれ、子どもたちにプレゼントされました。上記事例以外にも、T&D保険グループでは、被災地の自治体や障がい者施設、奨学資金基金などへの寄付をグループ各社より実施しました。



T&D保険グループではCSRについて詳細を記載した「T&D保険グループCSRレポート データ編」を発行しています。その他の活動についてはCSRレポート データ編をご覧ください。
[URL] <http://www.td-holdings.co.jp/csr/report/>

コンプライアンス

T&D保険グループは、CSRの推進において、コンプライアンスはその中核となる重要な要素であるという認識のもと、「T&D保険グループCSR憲章」に「コンプライアンスの徹底」を掲げ、経営の重要課題と位置付けてその推進に取り組んでいます。

グループコンプライアンス推進態勢

「T&D保険グループコンプライアンス態勢整備基本方針」に基づき、コンプライアンス推進態勢を整備しています。グループにおけるコンプライアンス態勢の監視と改善のためグループコンプライアンス委員会を設置。関連部署と連携しながらモニタリングと各社への指導・助言を実施しています。

コンプライアンス推進の取組み

○マニュアルの作成と徹底

T&D保険グループでは、営業職員、内務職員、代理店等の職務別に「コンプライアンス・マニュアル」をグループ各社で策定し、日常業務の手引き書として、またコンプライアンス研修の教材としても活用しています。

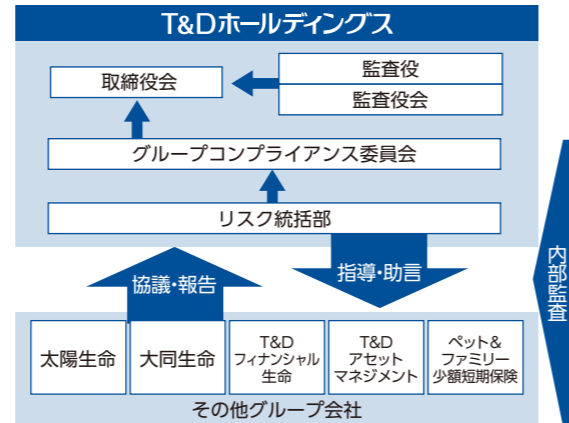
○研修を通じた取組み

T&D保険グループでは、グループ共通のテーマを設定しグループ各社が年間計画を策定し、役職員の研修を実施しています。2013年度の共通テーマは「ハラスメントの防止」。これ以外にも幅広いテーマで研修を実施し、実効性あるコンプライアンスの推進に努めています。

○内部通報制度

T&D保険グループでは、生命保険会社3社がそれぞれに内部通報制度を設置していましたが、2005年からはグループ内のすべての役職員を対象とした「T&D保険グループヘルプライン」を設置。匿名通報も受け付けるなど、実効性のある制度としてコンプライアンスの徹底に努めています。

■ グループコンプライアンス推進体制の概要



コミュニケーション

T&D保険グループは、「T&D保険グループCSR憲章」にステークホルダーの皆さまとの積極的な対話を掲げ、コミュニケーション活動を通じていただいた声を経営に活かす取組みを進めています。

社外からの経営参画推進態勢

生命保険3社では、重要な経営課題に関する社内委員会に社外の有識者の方々に参画していただくことで、業務運営の適正性と透明性の向上に努めています。

- 支払審査専門委員会 (太陽生命) : 医師、弁護士、学識経験者、消費者問題専門家に参画いただき、保険金支払いの適切性について検討いただけます。
- 保険金等支払審議会 (大同生命) : 弁護士、消費者問題の見識者に参画いただき、保険金のお支払いに関する苦情・紛争への対応や、お客さま宛て書類のわかりやすさなどについて審議いただけます。
- サービス監理委員会 (T&Dフィナンシャル生命) : 弁護士、消費者問題の見識者、マスコミ関係者に参画いただき、お客さまの満足度向上に向けた取組みについて審議いただけます。

お客さまとのコミュニケーション

《太陽生命》

お客さまに太陽生命および生命保険への理解を深めていただき、また、ご意見ご要望をお伺いするため、「太陽生命ふれあい倶楽部」を開催しています。2013年度は144支社、104会場で開催しました。

《大同生命》

提携団体である中小企業関連団体や税理士・公認会計士を会員とする各種団体の方々に大同生命の近況を報告し経営へのご意見をいただく場として「事業報告懇談会」を開催しています。



太陽生命ふれあい倶楽部

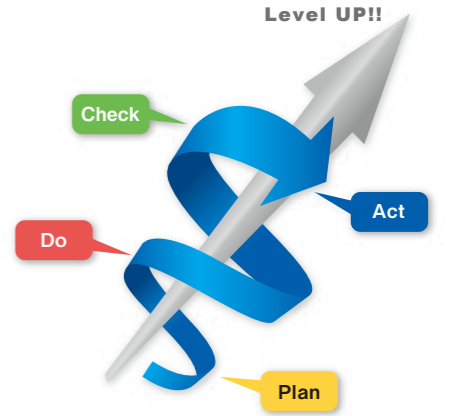


事業報告懇談会

T&D保険グループは、変化する社会の中で生じた多様な社会的課題や、地域社会、地球環境保護の課題の解決に、グループ各社の幅広い事業活動を通して貢献するよう努めています。そうした活動をグループ各社が一体となって推進できるよう、2011年にT&Dホールディングスの社長を委員長とし、グループ各社のCSR担当役員等をメンバーとするグループCSR委員会を設置しました。

グループCSR委員会では、グループCSRの基本方針の策定や重点分野を設定するほか、年度末にはこれまでの活動状況や施策の実施結果を確認・検討し、次年度のグループの活動方針と活動計画を策定します。年度の途中にも経過を確認しながら施策に取り組んでいくことで、グループCSRのPDCAサイクルを確実に回し、グループ各社が社会的課題の解決に向けた取組みを着実に実行できるよう活動しています。

グループ共通で取り組む活動だけでなく、グループ各社が独自に取り組む活動もグループ全体で情報を共有し、また、各社にそれらの活動への参加を呼び掛けるなどグループ各社のCSR活動の幅を広げることに役立っています。2013年度は、事業を通じて社会に貢献することをCSRの基本とし、より良い商品・サービスの提供のほか、「人権の尊重」と「地球環境の保護」を重点分野に活動を進めました。



2013年度 グループCSR活動の状況報告 (抜粋)

ここに記載しているのは、グループ共通施策として実施した主な活動です。この他にも、グループ各社が独自に実施しているCSR活動があります。活動の詳細については、CSRレポートデータ編に記載されています。[★は2013年度の重点分野です。]

グループCSR憲章項目	取組内容 Plan	結果・実績 Do	2014年度の活動予定 Check・Action
★人権の尊重	女性活躍支援	2013年度より新設したグループ人材交流短期コース枠を活用し、一般職・地域型女性職員の交流を推進。契約管理部門を中心に太陽・大同間で6部門13名の交流を実施。グループ横断で「グループ合同女性セミナー」、および「管理職向け女性活躍セミナー」を計4回実施。個社で、女性対象のキャリアビジョンセミナー、管理職養成研修、管理職候補者の社内留学等を実施。	取組みの進捗を受け、グループ内の連携強化により、女性活躍推進施策の更なるレベルアップを図る。 ・女性職員のグループ間短期交流の更なる推進。 ・グループ合同女性セミナーの対象者層の拡大。 ・グループの女性活躍推進に係る数値目標の設定について協議。
	多様な働き方が選択できる環境作り	次世代法第5期行動計画目標をグループ統一で設定。グループ報で同行動計画を周知。女性活躍とワーク・ライフ・バランスをテーマとする管理職向け合同セミナーを実施。	現状の課題を受け、女性活躍推進と一体的なWLBを推進する。行政や他社社向けの情報提供等を通じグループ内連携を強化。各社の女性活躍推進の視点に立った両立支援諸施策の充実・向上への取組みを促進。 ・次世代法第5期行動計画に基づく施策推進。 ・次世代法延長を見据えた施策の検討。 ・総労働時間短縮に向けたグループ共通施策および数値目標設定等を検討・実施。
	健康に働ける職場環境作り	過去、各社が個別に実施していた人権研修・セミナーをグループで統合・再編し、役員・部長セミナー、管理職セミナーとしてグループ横断で層別に開催。	取組みの進捗を受け、良好な職場風土形成に向けたグループ協働取組を継続・強化。2014年度は労働安全衛生法改正を見据え、特にメンタルヘルス対策を中心に施策を検討・実施する。 ・メンタルサポートサービス(予防・復職・医療機関との連携等)の導入等。 ・メンタルヘルスをテーマとする人権研修の合同開催 ・働きがいを感じながら能力発揮できる職場形成に向けた施策の継続実施。
★地球環境の保護	電力使用量削減 目標期間:2013年度~2017年度 基準年度:2009年度 対象範囲:HD・中核会社が保有または賃借して使用するビル全体 目標値:原単位を床面積とし、基準年度に対し、5年平均で10%以上下回る	昼休みの消灯、離席時のPCスタンバイ設定、時間外空調管理の徹底、コピー機・プリンターの電源OFF等の徹底。クールビズ・ウォームビズを実施したほか、ライトダウン・キャンペーンへの参加等の役職員の地球環境の保護への意識高揚に資する施策を実施。	2013年度の実績(対基準年度比 82.5% 順調に進捗)をうけ、2014年度も2013年度施策を継続する。
	事務用紙使用量削減 目標期間:2009年度~2013年度 基準:2008年度までの5年平均 対象範囲:汐留本社ビル 目標値:5年平均で5%削減	コピー枚数の管理強化、会議資料の削減、2IN1印刷、両面印刷を実施。	2013年度の単年度実績(目標比83.2% 目標達成)に加え、長期目標(2009~2013年度)でも事務用紙使用量は目標を上回る大幅な削減を達成。 削減成果の維持・定着を目指し、長期目標を再策定(直近5年平均の事務用紙使用量に対し、2014年度からの5年平均で9%以上削減)のうえ、目標達成に向けた取組みを継続して実施する。
	グリーン購入比率 目標:80%以上 対象範囲:HD・中核会社	2010年度より、環境対応商品以外を購入する場合、申請が必要となる態勢を引き続き実施。	2013年度の実績(グリーン購入比率95.4% 目標達成)をうけ、2014年度も2013年度施策を継続実施する。また、省エネ、省資源に繋がる各社の取組みの情報連携を推進しグループ各社の参加や同様の取組み実施を支援する。
コミュニケーション	CSRレポートの発行	従業員・顧客・一般消費者を対象としたフォーカス編と、投資家等を主な対象としたデータ編を、それぞれ発行した。また、ともに英語版を発行。	既存のレポート発行形態は、一定程度の評価が得られている。第三者意見や従業員アンケート結果、およびESG評価機関の調査内容・評価等を反映し、2014年度もフォーカス編・データ編の各和英版の4種類でレポートを発行する。
地域社会への貢献	グループ共同献血運動の実施	グループ各社と連携し、汐留本社ビルで8月と1月に献血運動を実施。献血会場への来場者数は合計で386名。	2013年度の実績をうけ、2014年度も継続実施する。



事業の先にあるもの、 それは社会的課題の解決です。

株式会社T&Dホールディングス
代表取締役社長
中込 賢次

私たちT&D保険グループの各社が持株会社であるT&Dホールディングスの下で一つの保険グループとなってから10年が経過しました。この間、世界的な経済の混乱や東日本大震災といった厳しい出来事がありましたが、グループ各社が知恵を出し合い、切磋琢磨しながらグループ一体となってさまざまな課題に取り組んでまいりました。

T&D保険グループの最大の特徴、それは太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命の中核生命保険会社3社が、家庭市場、中小企業市場、金融機関等代理店市場というまったく異なる市場で、特色ある保険商品を異なるチャネルを通じて皆さまにお届けしていることです。

T&D保険グループ各社は、「グループ経営理念」として「Try & Discover (挑戦と発見)による価値の創造を通じて、人と社会に貢献する」を掲げ、共通のグループ経営ビジョンのもとで、それぞれが独自の事業を展開しています。私たちは大手保険グループとして同じ経営理念、ビジョンを共有しながらも、各社がそれぞれの独自性、専門性を最大限に発揮することで、T&D保険グループとして着実な成長を遂げ、強固な基盤を築いてきました。

T&Dホールディングスの下に結集した10年前から現在に至るまで、各社はオリジナリティ豊かな商品・サービスを提供し、また、特色あるさまざまなCSR活動を推進することで、幅広いステークホルダーの皆さまの信頼に応え、社会の課題解決に貢献してきました。こうしたフィールドの広さこそが、私たちT&D保険グループならではの強みであると考えています。

わが国は、今、経済成長のスピードや人々の考え方、働き方の変化、また医療の進歩などさまざまな変化の結果として、

少子高齢化とそこから波及する多様な社会的課題に直面しています。これらの社会的課題に向き合い、解決方法を考え、それをお客さまを始めとした幅広いステークホルダーの皆さまに提供していくことが、「グループ経営理念」の実現に向けた具体的な行動です。

2014年、T&D保険グループ各社は21世紀金融行動原則に署名し、それぞれの事業を通じ持続可能な社会の形成に向けた取組みを推進していくことを表明いたしました。

T&D保険グループは、変化する社会の中で生じた、個人、家庭、企業に関する多様な社会的課題には、独自性を持つ各社の保険商品とサービスの提供を通じて、また地域社会や環境保護への役割は、各社の幅広い事業活動を通して問題解決に努めてまいります。

このような施策を実行するのは持株会社を含めたグループ各社であり、その役員・従業員一人ひとりです。そこで当グループはグループとしてのCSR活動を推進するため、2011年にグループ横断のグループCSR委員会を設置しました。年度末にはこれまでの取組みを確認し、次年度のグループの活動方針を策定、その上で経過を確認しながら施策を実行していくことで、グループ全体としてPDCAサイクルを確実に回しつつ、グループ各社とその役員・従業員一人ひとりが社会的課題解決に向けた取組みを着実に実行できるようにマネジメントしています。

これからも、T&D保険グループだからできる課題解決への取組みで、企業としての役割と責任を誠実に果たし、その行動を通じて人と社会に貢献するグループを目指してまいります。

第三者意見

さらに上のCSRを目指して

高崎経済大学 経済学部 教授

水口 剛

1984年筑波大学第三学群社会工学類卒業。ニチメン、英和監査法人等を経て、1997年高崎経済大学経済学部講師、2008年より現職。主な研究分野は環境会計、社会的責任投資等。日本公認会計士協会サステナビリティ情報開示専門部会長、中央環境審議会環境と金融専門委員会委員などを歴任。現在、NPO法人社会的責任投資フォーラム共同代表理事を務める。主な著書に「責任ある投資」(岩波書店)、「社会を変える会計と投資」(岩波書店)、「環境と金融・投資の潮流」(編著、中央経済社)、「環境経営・会計」(共著、有斐閣)など。



このフォーカス編からは、CSRに対する御社の変わらぬ誠実な姿勢が読み取れます。保険とは元々相互扶助の仕組みですから、家庭や企業のさまざまなリスクに対応するよりよい保険商品を、適切な価格で提供することが、最も重要なCSRだと思います。この点、保障内容の充実や保険料の低廉化、商品ラインアップの拡充などに、継続的に取り組まれており、評価できます。

一方で保険会社には巨大な機関投資家としての側面がありますから、資金の運用にあたって環境や社会に与える影響に十分配慮することが求められます。この点では、今年度、21世紀金融行動原則にグループ全体で署名されました。元々グループ内の太陽生命が率先して取り組まれてきたことですが、それをグループ全体に展開されたことは高く評価できると思います。女性の活躍を支援する取り組みも着実だと思えます。近いうちに目に見える成果が表れることを期待しています。全国一斉グリーンキャンペーンや全国障害者スポーツ大会への特別協賛など、長年にわたって社会貢献活動を継続されてきたことにも敬意を表します。

以上を前提に、さらに一段上のCSRを目指すならば、次の二点が課題ではないでしょうか。一点目は、本業を通じたCSRのPDCAです。12ページにはグループとしてのCSR課題に関するPDCAの状況が示されています。しかし本業そのものである商品開発や投資活動については触れられていません。もちろん所管する部署が違うので、従来の感覚からすれば当然だと思いますし、本業として別途PDCAはあるのだと思います。しかし今後は、本業の中にいかに社会的視点を組み込もうとしているかという点についても、結果だけでなく、PDCAの視点からより透明性を持って示していくことが必要ではないでしょうか。

二点目は、今年2月に金融庁が公表した日本版スチュワードシップ・コードへの対応です。6月の時点ですでに太陽生命、大同生命、T&Dアセットマネジメントが受け入れ表明をされていますが、重要なことは運用です。ぜひ高い志をもって、T&Dグループならではのスチュワードシップ活動を展開して頂きたいと思えます。

第三者意見を受けて/株式会社T&Dホールディングス 経営企画部CSRグループ

今年度のレポートでは、当グループが現代社会の課題をどのように受け止め、課題解決に向けてどのような取組みを進めているのかを、判りやすくお伝えするように努めました。また、コンプライアンスやコミュニケーションなど、昨年より幅広い記載を行いました。昨年度の第三者意見では、水口先生から、投資・運用業界の中でリーダーシップを発揮してもらいたい、とのコメントをいただきましたが、今回は、グループ全体での21世紀金融行動原則の署名について、評価をいただきました。また、当グループの本業を通じた取組みや、社会貢献活動などについても評価をいただけたものと思えます。その上で、本業の中にいかに社会的視点を組み込もうとしているかを、PDCAの視点から示していくことが必要、また、当グループならではのスチュワードシップ活動の展開を期待する、とのご意見をいただきました。

今回いただいたご意見については、今後の取組みを通じてお応えできるよう努め、さらに上のCSRを目指して、グループ一体となって人と社会に貢献する活動を推進してまいります。